

HOT・ホッと・くまもと

特別号

幸山政史通信

vol.12

2006 AutumnSpecial

HOT-HOT-KUMAMOTO

新しいくまもと、 始めます。

新たな挑戦、そして責任。

幸山政史は市長として、
次の二つを決断基準とし実行してきました。

- ①67万市民にとって公平公正であるか。
- ②次世代の子どもたちのためになるか。

プロフィール

・1969年4月10日 熊本県芦原町生まれ
 ・熊本市立西原小学校・北部中学校卒業
 ・1994年 熊本県立済美高等学校卒業
 ・1999年 大阪大学経済学部卒業
 ・1994年 日本集積体用銀行(現&icから銀行)銀行
 ・1995年～2002年 熊本県議会議員
 ・2005年11月 熊本県市長補選当選
 ・現在 全国市長会常務理事、熊本県議会常任委員会などを務める。

4年前、「市政刷新」を掲げ 市長選へ出馬しました。

当時、熊本市の財政状況は「中核市」の中で最低にまで悪化。不透明な決定過程など、市政への不信頼が高まっていた。また、政令指定都市や九州新幹線の全線開業に向けての取り組みが進んでおらず、「今のままでは熊本市は駄目になる」との思いから出馬を決意しました。公約の柱として、「情報公開と住民参加」「市民の視点で構造改革」「新しいくまもとづくり」を掲げ、初当選させて頂いてから4年。「当時の決断は決して間違っているし」と実感しています。

4年間で次につながる道筋と 体力をつけることができました。

最大の課題であった財政状況は、職員数の削減や行政改革を断行し、「中核市」最低からほぼ平均にまで建て直すことができました。また、市長交際費の100%公開や「相談要望事項の文書化」を行ない、公の場での直接対話とあわせて、透明性の高い公平公正で信頼される市政運営を行ってきました。

まちづくりとしては、熊本の本質である「地下水の保全」や、「少人数学級」の推進、中心市街地への企業誘致による雇用の拡大、「みずあかり」や「大にざわり市」など「市民協働による賑

わいづくり」、政令指定都市の実現に向けて、近隣市町村と共に「熊本都市圏及び政令指定都市についての研究会」の立ち上げなど、「新しいくまもと」への道筋をつくってきました。

熊本が大好きだから これからも挑戦を続けます。

基本となるのはやはり、「人」。活動する中で、熊本が大好きで熊本のために活動しているたくさんの人々との出会いがありました。改めて感じているのは、まちは基本は人であり、人がまちをつくるということ。行政が主導してまちをつくるのではなく、

まちに対する人々の思いや活動を共に形にしていることが行政の役割だと考えます。

そして、もう一つ感じているのは熊本が持っている「潜在力」の高さ。地下水に代表される自然の豊かさ、熊本城をはじめとする文化や歴史、熊本を愛し、情熱をもってまちづくりに取り組んでいる人々の力＝「熊本力」をもっと高めていき、全国に発信していきたいと考えています。私も皆さんに負けたくないし熊本が好きです。これらも全力で市政改革に取り組んでいきます。



これまで、4年間の取り組み。

3つの基本方針と25の詳細項目の達成度を報告します。

市民との約束(公約) 平成15年(2003年7月)

- ガラス張りの市政へ—情報公開と住民参加
 - 「口利き」から「政策論争」へ
「話しがらみ宣言」 **達成**
 - 市長交際費・食糧費の100%公開。
公約の別を明確に。 **達成**
 - 重要問題に市長の声を反映させるために
「住民投票委員」の創設。 **進捗中**
 - 「年6回」の定例市長記者会見を「毎月」実施。 **達成**
 - 政策評価、事業評価による優先順位
の明確化。 **達成**
 - 市民の意見を可能な限り市政に反映させ
るため、計画段階からの住民参加の促進。 **達成**
 - 審議会の公開性強化、審議委員の公募制導入。
委員の男女同数化を目標に。 **一部達成**
- ガラス張りの市役所へ—市民の視点で構造改革
 - 全事業の再点検と迅速な執行を目指す。
「数・お役所仕事宣言」 **達成**
 - 市長と職員が自由な対話を重ねる「フレック
フアストミーティング(事後談話)」を創設。 **達成**
 - 公益企業、出資団体の再点検と整理、統廃
合の実施。 **達成**
 - PRや民間人の積極的活用、外部委託などに
よる民間活力の導入。 **一部達成**
 - 入札契約の透明性を確保。担当部署ご
との契約事務を一元管理の体制を創設。 **達成**
 - 現行の中長期財政計画を見直し、新たな財政
健全化計画を早期に策定。 **達成**
- 政令市の実現へ—そして、新しい熊本へ
 - 新市編成を進めるため、公共交通網の抜本
的な再編を推進。 **一部達成**
 - 熊本電鉄線新線計画と通勤圏を結ぶ鉄道系交通機
関の整備を進め、PRに活用する計画。 **一部達成**
 - 熊本駅を「日本一乗り換える駅」にするため
整備を進め、市中心部とのアクセスを向上。 **進捗中**
 - 新幹線と在来線の道徳的決定や熊本都市圏の現状
認識の整備等、熊本市のグランドデザインを策定。 **一部達成**
 - 一人一人の個性を伸ばし、ゆとりある教育環境を
実現するため、小・中学校の30人学級を実施。 **一部達成**
 - 知識社会と少子化の両方に対応するため、学習支援を育
育プログラムや入学準備講座、成績向上プログラムを
実施する「21世紀の学力向上、少子化対策を推進」 **一部達成**
 - 住居と生活の両立を支援。子育てで子育ての悩みを
解消するため、子育て支援の充実や、子育て支援セン
ターの設置、保育所待機児童解消などに取り組む。 **達成**
 - 高齢者・障害者支援では、地域の一角として暮ら
せるよう、老人福祉センターを基本に、多様な
ニーズに柔軟に対応。 **一部達成**
 - 貴重な財産である地下水を確保するため、地下水面積
の拡大と、雨水貯留の推進。さらに、防災目的
の「貯水施設」の創設を進める。 **一部達成**
 - 環境に対する市民の意識の具体的な効果を市民に分
かりやすく公開するため、「環境賞」を導入。 **進捗中**
 - 中心市街地の空間化を未然に防ぐ。熊本の魅力
のひとつである商業の活性化を実現。 **一部達成**
 - 食文化が問われる中、安全で安心な食料を確保す
るための新たな食糧づくりを考える。 **一部達成**

最悪のシナリオにストップ! 財政再建に確かなる道筋。

市民の借金が減った!!

「中核市最低」から「ほぼ平均」まで回復!

国からの財源が
減る中でも
着実に健全化!



市民に身近で健全な 市役所づくりに着手!

まず市長が市民の意見を聞いていく!!

民間にできることは民間へ! 進む民営化・統廃合

まちづくりを協議する まちづくりトーク

平成15年1月から
これまでの参加グループ **108グループ**

◎家庭ごみ収集 **全体の1割で民間委託**

◎学校給食 **2力所で民間委託**(モリコロ公園と2力)

◎指定管理者制度 **平成17年/8施設
平成18年/338施設**

市政について意見交換する おでかけトーク

平成15年7月から
これまでの参加者 **2,105名**

団体の統廃合

土地開発公社
(株)サンシティ **解散**

(財)熊本市福祉公社ヒューマンライフ

(福祉)熊本市社会福祉事業団に統合

夢を語り合う ゆめトーク

平成16年3月から
これまでの参加者 **344名**

熊本再生で市民生活を豊かに!

子どもたちのために独自政策を推進!

熊本の宝である地下水を守る!

待機児童の解消のため、21年ぶり認可保育所を開設。少人数学級の実現を目指し、独自で3年生までの35人学級を実施。

熊本の財産である地下水を守り育てるため、全国に先駆けて「白川中流域における水田による地下水かん養事業」や「節水社会実験」を実施。

新しいくまもとが動き出した!

政令指定都市に向けて着実に前進!

近隣14市町村と「熊本都市圏及び政令指定都市についての研究会」を発足。基本構想にて、政令指定都市を中心とした九州中央の拠点づくりを発表。来年2月に基本計画をまとめる。



これから、さらなる挑戦へ!

これからの4年間で取り組む予定の具体的施策を、いくつか紹介します。

私の 基本的な考え方

「何よりも“人”が基本」
「日本一暮らしやすく住みやすいまちづくり」
「九州のど真ん中から“熊本力”を発信」



行政改革のさらなる推進

—公債費比率を17%前半まで改善—

財政改革への取り組みをさらに強化し、公債費比率(いわゆる借入金比率)を、平成20年度までには17%前半に改善します。また、平成14年度時点では6,433人いた職員数を、平成22年には5,956人まで削減します。

行政をもっと身近なところに

—市長による直接対話を拡大—

市長による直接対話のさらなる拡充に向けて、校区自治協議会などの話し合いの場を新たに設けます。また、市の各部署による重要施策・事業に関する地域説明会を、市内5ブロックで随時開催し

活力ある組織づくり

—係長昇任試験制度の導入—

平成17年度から実施している課長昇任昇任制度の定着を図るとともに、次の任期中に係長昇任試験制度の導入を図ることで、若手の登用、実力主義の人事組織づくりを目指します。

次代を担う人材育成

—少人数学級の推進—

ゆとりある教育環境を実現するため、少人数学級を推進します。小学校では4年生まで35人学級を、5・6年生では少人数指導を行います。中学校では1年生の35人学級を、2・3年生では少人数指導を実現します。

まちの即戦力づくり

—起業化支援及び産学連携促進—

ビジネス支援機能を持った情報交流施設の開設により、起業促進の充実を図り、大学との連携を強化し、まちづくりの即戦力としての人材育成を行います。あらゆる分野で女性の社会参画をすすめる、世界女性スポーツ会議の成果として、男女共同参画推進条例を設定します。

子育てしやすいまち

—乳幼児児童保育助成の対象年齢を引き上げ—

子育てしやすいまちづくりとして保護者の経済的負担を軽減するため、現在医療機関3歳児まで、医療入院就学前まで、歯科入・通院4歳児まで対象としている助成を、就学前までに引き上げます。

熊本の宝を引き継いでいく

—地下水のかん養と節水対策の推進—

地下水を守り次代へ引き継ぐため、現行の「地下水保全条例」を見直し、白川中流域での水田たん水や森林をさらに進め、地下水かん養の強化を行なうと同時に、10%削減を目標に節水対策に取り組めます。

移動が便利なまち

—公共交通網の再編—

現在のバス網を抜本的に見直し、一路線という線単位ではなく、地域全体を見た面での要請による本格的なバス網再編を行います。また、共同運行体制を確立します。

くまもとブランドの確立

—農水産物・水を全国に発信—

水については、熊本オフィシャルウォーター「熊本水物語」を製造し、農水産物をブランド化させ、全国に販売ルート確立していきます。

魅力ある熊本駅

—利便性の高い交通結節点を整備—

熊本駅は、日本一乗り換えの便利な駅を目指し、市電、バス、タクシーなどの乗降について分かりやすく利便性の高い交通結節点としての整備を進め、東口の玄関口には情報センターや図書機能、多目的ホールを備えた情報交流施設を導入します。

熊本城を核とした観光の振興

—熊本城の利活用の促進—

熊本城の本丸御殿や奉行丸などの利活用を推進し入場者を増やします。熊本城周辺「桜の馬場地区」には観光センターを開設。また大分～熊本～長崎、阿蘇～熊本～天草といった九州横軸観光ルート開発とともに、熊本ならではの「おもてなし」で観光振興を推進します。

未来につなぐ熊本

—政令指定都市の実現—

現在、近畿14市町村と研究会を設置しており、その中で政令指定都市は必要であるという認識は一致しています。平成22年3月までに、合併・政令指定都市を実現させ、さらに道州制を見据えた上での府都を目指します。

これまでに 寄せられた 質問について

幸山政史はこう考えています。

東部地区での大型商業施設 建設不許可について

計画地周辺は、本市都市マスタープランで良好な住宅地と位置付けされており、また中心地から空港・高速道路までの主要道路が交通渋滞となる可能性が高く、中心市街地の空洞化の問題なども含め総合的に判断をさせて頂きました。地域住民の方から寄せられた多くの署名につきましましては重く受け止め、計画地を含めた土地利用の方針は、地域住民の皆様のご意見をお聞きしてできるだけ早い時期に具体策をご提案したいと考えております。

熊本朝鮮会館の固定資産税 一部減免について

熊本朝鮮会館の中にある会議室などに対して、熊本市は以前から公益性のある「公衆施設」に該当するとし、固定資産税の一部を減免してまいりました。一方、北朝鮮のミサイル発射や拉致問題などについては、決して許されるものではありません。この問題については最高裁に上告しており、その結果を踏まえた上で、公平公正に対応してまいります。



議会との関係について

市民の代表であります市議会と、建設的な議論を交わすことは非常に重要であり、また、そのことで市民の皆様にも市政の動きが伝わっていくものと考えております。そのためには、議会への十分な説明、あるいは、意見交換の場の設定などが不可欠であると考えており、お互いの緊張感を持ちつつも、これまで以上にできるだけ早い時期の丁寧な説明や、忌憚のない意見交換ができる場の設定などに努めてまいります。

経済の振興について

最優先課題の一つだと考え、これまで中心市街地へのコルセンターの誘致や市民協働によるイベントの開催などを行ってまいりました。今後も中小企業のサポートや起業家支援、全国でもトップクラスにある農産物加工下水を、熊本ブランドとして私自ら積極的に全国に発信するとともに、政令指定都市の実現によって熊本の魅力を高め、熊本の経済振興に努めてまいります。

公約について

公約は選挙の際に掲げるだけではなく、当選後もしっかりと達成状況を説明していく責任があると思っております。市長当選後、これまで半年ごとに公約の進捗状況を発表し、年に1回公約の検証大会を開催してまいりました。今後もこれまでの取り組みを続け、市民の皆様との約束=公約の達成度を速速に公開し、皆様にご報告される政治活動をしてまいります。

応援メッセージ



幸山市長
山田早苗

幸山市長主催の政治を考える勉強会「幸山塾」に参加することで、市政に対して関心を持つようになりました。我々のような老人に対してはわかりやすいよう、いつも丁寧な話をされます。感心することは何年か前まではありません。行政全般についても本当によく勉強されていて、若ささえ感じることが出来る努力をされている姿を見出し、心服されるのを感じています。



会社経営
西 益生

幸山市長のこれまでの取り組みを見ると、市政を健全にしようという意気込み、新しいことをとづくりに取り組む熱い思いを感じることができ、市政が美事に変わりつつあることを感じます。ただし、まだまだ熊本の経済は雇用用出を余りこれからのと思いますので、これからの財政再建をほめて下さるままざまな経験を活かし、今後の4年間に期待しています。



美術師
山城美智子

これまで、政治家に対するイメージは非常に良くなかったのですが、幸山市長に知度がお会いする中で、建前と本音の区別もなく、この人ならば信じられると思いました。たまにもっと上手くやればいいのかなと思うところもありました(笑)。市政は断崖に立ってまいりました。でも、1人1人が動けば、この世に変われないものなんてないですね。幸山市長の言動からそう学びました。熊本が好きで、そこに住む人々のことも大好きな幸山市長、我々インテリゲンチヤを始め、熊本の学生達も応援していると思います。



主婦
船尾有理江

今、子どもが2人いて、よく熊本市の施設などを利用して頂いています。幸山市長も小学生のお子さんが入っているお家で、市の学習で授業にも熱心に取り組んで頂き、さらに熊本市も身近に感じようになりました。お忙しいとは思いますが体を大事にして頑張ってください。子どもたちと一緒に応援しています。



高校の副校長
井上貴加志

高校2年生の時、同じクラスでした。当時自立しようとするタイプではなく控えめな感じでしたが、非常に芯が強く辛抱強いという印象が残っています。若い幸山市長の実直で誠実な取り組みに、私の周りの若い人たちもかなり刺激を受けているようです。ぜひ未来を夢見る若者たちのためにも、これからも応援して下さい。期待しています。



熊本大学6年
西岡朋美

今年の夏、幸山事務所でインターン(職業体験)をさせて頂きました。これまでは、政治で真の上で不動のものだと思っていましたが、1人1人が動けば、この世に変われないものなんてないですね。幸山市長の言動からそう学びました。熊本が好きで、そこに住む人々のことも大好きな幸山市長、我々インテリゲンチヤを始め、熊本の学生達も応援していると思います。

幸山政史後援会事務所 電話(代表) 096-346-1801 FAX 096-346-1809

〒860-0085 熊本市高平3-43-11 太平興産ビル2階

・ホームページ・ <http://www.kohyama-office.com/>

・Eメール・ jimusho@kohyama-office.com